

令和5年度 第3回たかつコミュニティスクール 議事録

日 時	令和5年11月16日（木） 9時30分～11時30分
場 所	神奈川県立高津支援学校 校長室
出 席	学校運営協議会委員 8名 事務局12名
問合せ先	副校長 埜崎 真弓 電話 044-865-4921（直通）
<p>1 校長挨拶</p> <p>ご出席いただき、感謝申し上げます。コロナ収束後、以前の行事が復活し活気が戻ってきている。今年度の中間評価と、来年度からの4年間の目標についてご意見をいただきたい。</p> <p>本日はよろしく申し上げます。</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>季節の変わり目で寒くなり、児童生徒・保護者・教員も健康管理が大切な季節。季節が移ろうように、学校運営協議会もうまく進め、先のことを見ていきたい。コロナ後は「以前（コロナ前）に戻る」わけではない。大事なものは、児童生徒に「どういう学びをさせたいか」ということ。児童生徒に対する学びを考え直す機会である。本日はよろしく申し上げます。</p> <p>3 グループ・学部 中間評価について</p> <p>各GL、学部長より報告</p> <p>4 防災部会の取組</p> <p>教頭より報告</p> <p>5 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で災害のイベントには参加していた。今回のイベントは興味があった。子供はキャンプだと思っていたようだ。暖かい日だったが、暖房をつけマットがあってもかなり寒かった。実際はもっとスペースも狭く、電気も使えないと思うと、実際に体験をして「こんなじゃないな」と問題点が考えられた。子どもはトイレの回数が多く、節水できるかという問題点をリアルに感じた。先生方に沢山準備していただいて体験できた。 ・「座って半畳、寝て一畳」が実際。一般の子どもたちと一緒にするのは難しさがある。 ・たかつの教育内容系統表は高津支援学校の強み。教科は大事。各教科等を合わせた指導とそれぞれ活用できるとよい。各教科等で何と何を合わせたと書かなくてもよいと思う。教科別指導は大事、合わせた指導もしっかりやる。学習発表会は特別活動だが、関係している。教科も授業として評価する。 	

・卒業後生活をして仕事帰りにお惣菜をスーパーで買って帰る、そういった「学校で教わったこと」が役に立つ。調理の題材はおしゃれなものではなくてよい。

・宿泊の荷物整理は、何回かしかチャンスはない。できなかつたらそのまま大人になってしまう。数年後には社会に出て、その後は機会がなくなるということをしっかり伝えてほしい。

・資料の内容とパワーポイントがリンクしていない。企業であればこれは NG。パワーポイントの資料を事前に配付し、これは何ページとわかるように準備してほしい。

・防災宿泊は非常に良い取り組み。一般の避難所に行けない方を高津へ、ということであれば、周囲への周知を。一般の方が高津へ来ない。教員だけは大変。地域の方や企業にも連絡して協力できると良い。

・「おかしも」、「おはしも」？どちらが正しいのか？

・一般には「おかしも」と思う。文言の統一はされていない。

・宿泊体験では、ご家族で対応が基本で、その場に慣れるように周囲が対応していた。施設は職員が「やってあげなきゃ」となる。ご本人にお任せ、というスタンスも良いと感じた。

・背の高い段ボールだったため、閉鎖的になって落ち着くことができたのではないか。

・マットは温かく、下からの冷えを防げることが大事。多用途なので備えておくとよい。

6 学習発表会（高等部2年生の発表）視察

7 令和6年度から令和9年度の目標につて

校長より報告

8 協議

・図書室の整備の見通しは？

→法律的には作るものだが、空き教室がない。図書スペースを確保している。分教室は高校の図書室を活用している。

・キャリアパスポートとは何か。

→自分は何が得意で何が不得意か、考えるために使う。実際に外に出たときに活用する。・文科省の指示で作成しているが、学校でどううまく使うかが課題。個別教育計画もある。

・「個別最適な学び」というが、一方では集団で学ぶ機会も作る。教室不足もある。集団ではいられない児童生徒を、集団に居させる工夫とは。

→学校は「集団の中で個を育てる」ことがベースにある。集団に入れるための環境づくり。

・「個別最適な指導」「協働的な指導」をやりましょう、と教員向けに働きかける文言。

・発表会の感想。子どもたちが楽しそうで、こちらまで楽しくなった。先生方の出し物のアイデアや児童生徒に合わせたポジションの工夫が良かった。ベニア板のタップがすばらしかった。

- ・防災学習でどう関わられるか考えていた。起震車（地震体験）などの訓練ができるか。
- ・起震車は川崎市に1台しかないので、予約が大変。
- ・令和9年に50周年、式典は大変ではないか？

→これから4年間で何を行うか考える。40周年は記念運動会をやったようだ。児童生徒の活動とからめて考える方向か。改修等の予算は特でない。

- ・「たかつスタンダード」はこれから作成するのか。最終年度の完成を目標にしているか。

→いくつもの分野があるので、それぞれで考え、積み重ねていく形か。

- ・地域を第2教室にするとは？

→地元のどら焼き屋さんのどら焼きの餡を児童生徒が投票し、実際に「秋の遊び場」という行事で販売予定。餡の候補も高等部・分教室の生徒が考えた。カレー屋さんは「生姜焼きカレー」に決定している。自分たちが学んだことが地域で生かされる。どちらも「秋の遊び場」の限定商品。

・卒業生も楽しみにしている。高津支援学校を卒業したことを誇りに思っているようだ。50周年記念のイベントも卒業生が参加できるとよい。

- ・高津支援学校は地域との連携を頑張っている。

9 校長挨拶

学習発表会、生徒の様子を見ていただきよかった。コロナもインフルエンザの流行もなく過ごせている。ご家庭や教職員の協力があったること。学校目標については、2月には意見を確定していきたい。何か追加のご意見等ありましたらいつでもご連絡をください。

本日はありがとうございました。

【配付資料】

- ・令和5年度第3回たかつコミュニティスクール開催要項
- ・令和5年度グループ年間活動シート（中間評価）
- ・令和2年度から令和5年度の学校目標と今年度の目標
- ・令和6年度から令和9年度の目標（案）
- ・学校だより「スマイルのたね」第67、68号